

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271201848
法人名	有限会社 カムアクロス
事業所名	グループホームしいえす常盤平
所在地	千葉県松戸市常盤平3-12-3
自己評価作成日	平成26年11月25日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	平成26年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一層、日々専門性の高い学習を重ね実践に反映していることで、安全で安心できる生活を送ることが出来ています。また一人ひとりの出せる力が発揮され、はりのある楽しい生活の場となるよう、利用者の皆様とスタッフが一体となり、作品や特技を披露できるイベントを企画し、発表から展示の喜びから次の意欲へと繋がってくる実感を味わうことが出来る施設です。また食事の提供においても、栄養、盛り付け、視覚の面でも楽しみがある食事づくりに配慮し、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅地と商店街の至近距離にあり、それまでの生活環境をそのまま移動させた生活の場所という雰囲気を持している。事業所内では全員で共に過ごす食事や体操の時以外は、時間にしばられず、法人の理念である「ありのままでもいいんだよ」の考え方が徹底され、利用者には、思い思いの過ごし方や、過ごす場所を提供され、時間の使い方も、買い物に出掛けたい時、外気浴をしたい時、部屋で寛ぎたい時など、職員は利用者の希望に添って支援を行っている。
また事業所では利用者が食事を楽しめるよう、料理の盛り付けなどの工夫をしていて、利用者の誕生日にはちらしずしや赤飯を提供し、正月には餅の代わりに、上新粉を用いてお汁粉を作り利用者を喜ばせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【ありのままがいいんだよ】の理念を共有し、今までと変わらない生活に近づけるよう、職員一同実践・支援しています。	法人の理念を踏まえ、日常生活の中で全員で行う食事やおやつ、体操、レクリエーション等以外では、時間にしばられず、従前の生活を継続できる環境づくりで、利用者の気持ちに添った支援を行っている。	月に1回介護相談員の訪問がある。利用者との面談を行い、その結果により改善指導が行われる。市の介護給付課とも常時やりとりがあり、十分に連携が取れている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事予定を組み、家族・隣人・住民参加の声掛け電話連絡等を行っている。町内の理容室を利用したり、地域スーパーを利用しながら、地域の参加をしています。	地域の一員として自治会にも加入し、桜祭りや盆踊りなどに参加している。利用者が地域で暮らし続けるため、バーベキュー大会に近隣住民を招くなど、交流の基盤作りに力を入れている。	近隣住民の認知症への理解を深めるには年月が必要です。更なるふれあい活動の継続を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の相談員、地域包括センターのご協力、ご指導を受けつつ、またご家族の協力を得ながら、地域に溶け込めるよう、努力しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催を行い、実践状況の報告やその時のテーマに沿って問題を提起し、評価を行いながらサービスを行っています。	会議は2カ月に1回、利用者家族、民生委員、地域包括職員等の出席を得て開催している。地域との繋がり、行事、認知症への理解などの話し合いや、ヒアリングの報告等を行い、出席者の意見は運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護給付課、地域包括センターとの連絡を取り、利用者の生活がよりよい となるようにご指導を頂けるよう、協力関係を築いています。	事業所には月に1回介護相談員の訪問があり、利用者との面談を行い、その結果によりアドバイスがある。市の介護給付課には経営者が出向き、報告や相談を行うなど、相互の連携を図っている。	現在抱えている課題や、取り組んでいるテーマ等を発信し、その解決に向けて共に取り組む体制を強化して行く事は今後必要です。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【ありのままがいいんだよ】の理念の下、原則としては玄関ドアにチャイムを取り付けている。また、危険の予測がある場合、可能な限り付き添い、見守ることを職員全員に周知し、実践に取り組んでいます。	利用者の不安を取り除くことが出来る介護を目指し、身体拘束をしないケアに努めている。また職員全員に定期研修の都度徹底を図っている。外出者は、職員が近くで見守り安全を確保している。	利用者が引き起こす症状の原因は、利用者個々の不安や混乱にあると言われています。本人の思いに沿い、安全確保に繋げるため、今の取り組みを継続することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員の定期研修、また外部で受けた研修の発言の場を設け、虐待に関しても見逃ごされないよう、全職員が意識を実践するよう、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修において専門職の講義を受けたり、管理者として権利擁護に関する研修を受け、学んだことを活用できるように施設内研修を行い、全職員に周知する機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時のケアプラン作成において、入居者様・ご家族に解りやすい説明を行い、不安、疑問がないか確認し、理解、納得を得たうえで契約をして頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族には、常にコミュニケーションをとりやすい環境を作っている。ご意見、ご要望があればいつでもお受けできるよう、面会記録書を設け、自由に申し出られるようにしている。また話しやすい環境を作るようにしています。	遠方の家族が多く、時々面会に来られる家族は3分の1くらいであるが、来所者には必ず面接し、率直な意見を聴いている。そこで出た要望等は記録し、職員と共有し、改善に活かしている。	遠方にお住まいのご家族の来所は難しい様子ですので、きめ細かい状況報告を定期的に行い、意見を聴く等の取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務を実践していく中で疑問や改善案があるときには、朝礼、申し送りノートによる、その都度検討・処理し、反映できるようにしている。	毎日1F、2F合同の朝礼を行い、申し送りノート等を活用して利用者の状況を把握し職員間で情報を共有し、必要な改善等を図っている。職員間での改善等が難しい場合は経営者の判断を仰いでいる。	申し送りノートに基づき日々情報を共有していますが、言葉のコミュニケーションは気持ちも伝わります、朝礼の他にも日常的な声掛けや立ち話ミーティング等の更なる取り組みも期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部、外部研修を受ける機会を持ち、各自が向上し、内部評価にも反映させ、やりがいのある働きやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、社内研修、外部研修と社内研修、外部研修と各人に合った研修を提案し、実務書及び経験者が講師となって内部指導をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は系列の施設との勉強会、研修を通して交流を深め、お互いの良い活動をサービスに反映できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設生活が始まってから不安な様子や困っている様子がないか、些細な表情からも汲み取る声掛け、傾聴の関わりを取りながら安心して生活を楽しんでいただけるよう、各職員の経験を生かし、支援、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時には、本人の生活状況や身体状況を報告し、安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供とともに、施設での暮らしによる環境の変化も合わせ、内容を変更し、他のサービス利用にも対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のADLに合わせ、できることを一緒に行い、またできる力が発揮できるように見守り支援するなどの努力を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から今までの生活状況や習慣を聞き取り、相談をしながらご本人を支えています。またイベント等を企画しお誘いし、ともに参加できる支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は楽しみにされています。遠方のご家族や体調が悪くて来られないご家族には、電話やお手紙に写真を添えるなど、近況をお伝える支援をしています。	利用者は高齢化が進み、馴染みの人や店なども記憶は曖昧となっているが、たまに来所する友人、教え子等の訪問を楽しんでいる。事業所は本人の昔の記憶や家族・知人の話を手掛かりに馴染みの継続を支援している。	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援することも大切ですが、症状が進み記憶が曖昧になっている利用者には今を大切にする支援も期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士楽しく過ごせるよう、利用者一人一人を把握し、コミュニケーションがスムーズにとれるように職員がつなぎ役として話題を提供し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談や支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、職歴を顧みて、その人らしい生活のあり方の検討を行い、話題の提供、共感できる会話や傾聴の機会を設けています。	日常的な会話の中で傾聴を心掛け、表情やしぐさも見逃さず、利用者各人の思いや意向の変化を読み取っている。また、記憶に残る昔の生活歴等を聞き出しながら、意向を察知するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行為や行動が、その人にとっての景観のどこから来たものかを考慮し、ケアに活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶の声掛けにより、その人の心身の状態を把握して、一日が快適に過ごせる支援ができるよう、努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いの中から、現状と以前の生活とのつながりを知りえなかった新たな事実が判明することもあり、介護に役立っています。	介護計画は、月単位でモニタリングすると共に、毎週の研修会でカンファレンスを行い、職員の意見を介護計画に反映している。また計画は3ヶ月単位が基本だが、家族の意向や利用者の状況により即時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを行いケアの共有を図り、実践しながら記録し、ケアの見直しを行い、計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活リハビリについては、主治医と相談して事故のないよう最善を尽くしています。またご本人に家族の希望により、外部のマッサージの利用など、社会資源も活用し、支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春には、施設前の桜並木で桜祭りに参加、また近隣の公園等で散歩を楽しんだりしています。夏には近くの公園での盆踊りに参加し、楽しまれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受け、状況によってはご家族に連絡、報告を行っている。緊急時には提携する総合病院に搬送できるシステムがございます。	月に各2回内科のかかりつけ医及び歯科の往診を受け、緊急時には提携する総合病院に24時間いつでも搬送が可能である。また利用者が従前のかかりつけ医の受診を希望する場合は家族の同行が基本となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師さんに心身の状況の変化を報告し、主治医との連携に配慮しています。内容は往診記録に残しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に面会し、状態の把握に努め、隊員がまじかであるかどうか、リハビリの状況等の情報を得て、退院に備えて病院の主治医との関係を持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネジャーを中心に日頃から病状の把握に努め、家族に連絡の上、その意向を把握して主治医による診療を受けながら、指示・指導を受け、支援を行っています。	家族の同意を得た上で、主治医の指示に基づき訪問看護を利用し、終末期の支援を行っている。痛みや苦しみを和らげ、淋しい思いをさせないために音楽を流し、周期的に声かけを行いながら、自然に穏やかに息を引き取るまで支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、初期対応の徹底と、必要に応じた主治医との連携を取りながら支援を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を予測し訓練を行っています。また研修等で実践力を身に付けています。また緊急連絡網等は徹底し、また近隣にもお願いをし、協力の体制を得ている。	消防署参加の訓練、夜間を想定した避難訓練等、年に3回の災害時の訓練を行っている。火災訓練ではスプリンクラーの作動により衣服がぬれたことを想定し、毛布を被って近くの公園へ避難する訓練も実施している。	大型冷蔵庫には食材があり、災害時などの食事の提供に支障はなさそうですが、ライフラインが寸断された場合にも利用者に3日から5日間食事の提供が可能か確認しておくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症への理解、ケアの在り方についての研修を重ね、一人ひとりの人格を尊重し、丁寧なかかわりを心がける支援をしています。	利用者の経歴等を理解した上で、その人に見合った言葉で声掛けを行っている。どの利用者に対しても、命令口調や束縛口調は絶対しないことと、プライドやプライバシーを損ねる話しかけをしないことに徹して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	丁寧な声掛けをすることなど、ご本人の思いや希望を聞き出し、時間をかけてその思いが実現できるよう、援助しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状況を観察・把握したうえで、散歩や体操、入浴を実施しています。ここに合わせ、レクを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時じや、着替えの時の選択の手伝いを行いながら、季節の変化を感じていただいています。 訪問理容室を利用し、ご本人の希望される髪型に仕上げ、満足できる支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるように、料理の盛り付けなどの工夫をしています。昔懐かしい料理の提供をし、喜ばれています。体調により配膳や片づけを職員と行っています。	利用者の誕生日にはちらしずしや赤飯を提供している。また正月には餅の代わりに、上新粉を用いてお汁粉を作り利用者を楽しませている。利用者は食事の準備では機能訓練を併せ、玉葱の皮むきや、コップ、箸の配膳等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調、口腔状態に合わせた食事形態の提供、水分確保は困難な利用者様には好きな味の飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に応じ、毎食後、本人ができない部分の介助を行いながら、口腔内の清潔を保持しております。月2回の歯科医師の往診時に相談しながら、清潔保持の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを職員同士が把握・共有しながらトイレ誘導または声掛けを行い、失敗を減らし、快適に過ごせるよう支援を行っています。	事業所は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけやトイレ誘導を行い、常時清潔を保つ支援を行っている。利用者の中には誘導する前に意思表示をする人がある等、自立に近い成果が表れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼らず、食物の工夫や水分摂取量等に配慮し、軽い運動への働きかけなどを支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や希望を考慮し、個々に合った支援をしています。体調によっては清拭や足浴を行い、支援をしています。	事業所は週に2回の入浴日を決めているが、利用者の意向で他の日にも対応している。入浴は個浴で夫々の希望に合わせて背中を流すなどの支援をしている。夏にはシャワーだけ等、個別の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状況に合わせ、日中は昼寝、また天気の良い日は日光浴等を支援し、夜間は安心して眠れるよう、一人一人の見守りを支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬の理解をし、支援していません。 服薬は間違えのないよう、一人ひとり対面し、日付、名前を復唱し、確認しながら実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳、下着・洗濯ものたたみなど、興味がある手伝いをご自身で選んでいただき、日課として生活のリズムになっています。また趣味に集中して過ごされたり、庭の花木の手入れを仕事として、張りのある生活を楽しんでおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣が商店なので、散歩しながらスタッフの付き添いで買い物に出かけたり、面会されたご家族も外食を心がけてくださっております。	車いすの利用者も多いが、近くのアベリア公園には良く出かけている。また、殆どの利用者は庭での外気浴が日課だが、外気浴中にコーヒーを楽しむ人もある。常盤平の桜祭りでは弁当を携え歩行者天国を、花を愛で乍らゆっくり散歩するのを定例行事としている。	デング熱等外出時の感染には十分注意することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身体状況によって外出を控えなければならぬときは、希望を受け、内容を考慮し対応、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により、関心のある方と連絡を取る支援をしています。また電話や手紙等でご本人に代わって、近況をお知らせするなどしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間において、利用者に危険がないよう配慮した生活や季節が感じられる空間の提供を支援しております。	ホールや廊下など共用の場所は利用者にも手伝って貰いながら朝夕モップ掛けをし、「居心地の良い場所」の維持に努めている。ホールには時々ボランティアが来所し、手品や大正琴の演奏で利用者を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の状況に配慮し、好きな作業や趣味を楽しんだり、ご自分の居室で過ごされたり、自由な時間を支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の希望により、使い慣れたものを活用し、居心地良く暮らせるよう、支援しています。	事業所では、居室の利用について何らの制約もすることなく、利用者が使い慣れたモノを活かしながら、本人と家族が共に納得できる部屋づくりをすることを支援している。事業所では畳の居室も用意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人できることを観察し、安全な環境を提供しながら自立した生活が送れるよう、支援しています。		